



## アメリカ

### 歩行者の安全向上に向けた新規則の提案

NHTSA (アメリカ運輸省道路交通安全局) <https://www.nhtsa.gov/press-releases/nhtsa-proposes-new-vehicle-safety-standard-protect-pedestrians>  
CR (コンシューマー・レポート) [https://advocacy.consumerreports.org/press\\_release/with-pedestrian-deaths-at-crisis-levels-consumer-reports-supports-lifesaving-proposed-safety-standard-for-the-front-of-vehicles/](https://advocacy.consumerreports.org/press_release/with-pedestrian-deaths-at-crisis-levels-consumer-reports-supports-lifesaving-proposed-safety-standard-for-the-front-of-vehicles/)

アメリカの道路での歩行者の死者数は、2013年の4,779人から2022年には7,522人と57%も増加。2022年の歩行者死亡の88%は自動車との衝突事故による。そのうち、一般乗用車による歩行者の事故死が37%に対し、多目的乗用車によるものが49%を占めたという。NHTSAは2024年9月、歩行者の死亡や重症のリスクを軽減する設計を要求する新しい連邦自動車安全基準 (FMVSS) 案を公表した。

提案された新基準では、歩行者衝突による頭部外傷の重症度を軽減すべく、多目的乗用車 (SUV、バン等) を含む車両総重量 1 万ポンド (約4,536kg) 以下の乗用車が時速25mph (約40km/h) 以下で衝突した際のボンネットの歩行者頭部に対する衝撃をシミュレートし、ボンネットの衝撃吸収度を測定する試験手順と、頭部外傷基準 (HIC) を満たす性能要件が要

求される。試験の際には子どもから大人までのさまざまな頭部模型が使用される。この新基準によりアメリカ独自の基準が世界技術規則 (GTR) と調和し、安全対策が強化されて年間死者数が67人減少するとNHTSAは推計している。

歩行者の安全向上を要求してきたCRは、今回の基準はこれまで適用外だったアメリカで人気の大型車にも適用される点を歓迎している。CRが2024年11月に公表した全国調査では、成人の75%が「たとえデザイン変更につながるとしても安全性向上のために今回の新基準に賛成する」と回答した。

CRは、この新基準案へのパブリックコメントとともに、他組織の賛同も得て集まった26,000人以上の署名をもって早期の導入を求める公開請願書をNHTSAに提出した。



## オーストラリア

### OPショップを賢く利用する方法

CHOICE (オーストラリア消費者協会) <https://www.choice.com.au/shopping/everyday-shopping/bargain-hunting/articles/guide-to-op-shopping>

OP (オプ) ショップとはopportunity shopの略で、寄付で集められた衣類や日用品などの中古品を安く販売する店のオーストラリアでの呼称。多くは慈善団体などが運営し、その収益は活動資金となる。同国では広く普及しており、最近ではビンテージ古着を探す人に大人気という。節約を心がけて環境問題やSDGsも意識する消費者に向け、CHOICEはOPショップの上手な利用法を紹介している。

OPショップでの購入に最適なものは子ども向けの衣料、食器類、玩具など。子どもは成長が早く気まぐれでもあるため、あまり使われず劣化も少ない良品や思わぬ高級品が安く手に入る。またクリスマスなど時季限定の飾り物も、毎年似たものを購入してすぐに廃棄するよりもOPショップで買うほうがよい。子ども用品を選ぶ際の注意点は、玩具では緩んだ

ネジや外れそうなボタン電池、鋭利な角など。最新の安全基準に適合しないベビーベッドやチャイルドシート、口に入れる哺乳瓶なども避けるべき。寝具 (シーツ等) やタオル類は、デザインや色にこだわらなければ豊富にあり、品質のよい綿100%がお勧め。台所用品は木製麺棒、ガラス製保存瓶やボウル、ワイングラス、ステンレス製や鋳鉄製のメジャーカップなど高品質のものを。一方、OPショップの中古家電は部品の欠落や動作不具合が多く、危険なため避けるほうが賢明。

OPショップにはガラクタも当然多いので、根気よく繰り返し探すのがコツ。大都市より郊外の小さな町のほうが安い傾向がある。CHOICEは、もし自宅に不要の良品があれば、買い取り業者に売るのはなく、OPショップに寄付するよう勧めている。

今回をもちまして連載を終了させていただきます。長年ご愛読いただき、誠にありがとうございました。